

**Japan Consortium for Open Access Repositories (JPCOAR) and Japan Alliance of University Library Consortia for E-resources (JUSTICE) Statement on the American Chemical Society's Article Development Charge**

10<sup>th</sup> November 2023

Japan Consortium for Open Access Repositories (JPCOAR) and Japan Alliance of University Library Consortia for E-resources (JUSTICE) wish to hereby raise our voices in protest against the introduction of the Article Development Charge (ADC) model by the American Chemical Society (ACS), which charges authors \$2,500 US for the right to deposit their accepted manuscript into a repository without an embargo period.

The ADC model provides no extra value and its necessity is quite unclear. Hence it is reasonable to understand that this is a simple attempt to increase the ACS's revenue taking advantage of authors compliance with the national and funders' policies to make their manuscript open in repositories without any embargo. Furthermore, costing ADC will be a double-dipping to articles already made available by paying subscription fees. This attempt obstructs not only authors' rights on manuscript but also the global movement for Open Access, especially through the use of repositories. The dissemination of the ADC model will move Open Access backwards and raise unnecessary paywalls for Open Access through repositories. Repositories are and should always be free of charge for researchers to deposit their own research output, in addition to keeping scholarly output and scientific knowledge open for public to access. The fees are only acceptable when the authors transitioned their rights to ACS when they wish to publish in ACS journals and not when they wish to make their manuscript open in repositories.

JPCOAR and JUSTICE recognise the publishers' necessity in charging cost for publication. However, we strongly request ACS and any other publishers to go with transparent, equitable, and sustainable financial models to realise Open Access without unnecessary financial burdens and paywalls for researchers and universities to deposit their scientific outcomes.

Shigeki Sugita

Chair of the steering committee

Japan Consortium for Open Access Repositories (JPCOAR)

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp>

Sawako Kojin

Chair of the steering committee

Japan Alliance of University Library Consortia for E-resources (JUSTICE)

<https://contents.nii.ac.jp/en/justice>

米国化学会による著者最終稿の公開費導入に対する反対声明（オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）および大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE））

2023年11月10日

オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）および大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）は、米国化学会（ACS）が、著者最終稿を公開猶予期間なしに機関リポジトリ等で公開する場合の費用（ADC）を導入したこと<sup>\*1</sup>に反対し、ここに声明を発表します。

ADCモデルは何の付加価値も提供せず、その必要性も不明確です<sup>\*2</sup>。したがって、このモデルの導入は、著者が国のオープンアクセス方針<sup>\*3</sup>や助成ルールに従い、著者最終稿を公開猶予期間なしに機関リポジトリでオープンにすることを利用して、米国化学会の収入を増やそうとするものです。これは、本来著者が持つ、著者最終稿に関する権利だけでなく、特に機関リポジトリの利用を通じたオープンアクセスの世界的な動きをも阻害するものでもあります。ADCモデルが普及することになれば、オープンアクセスの動きが後退することになります。また、本来費用負担がかからない機関リポジトリを通じたオープンアクセスに、不必要な費用負担の壁（ペイウォール）を設けることになります。また、同一の論文に対して購読料とADCの二重取りになりかねないものと言えます。

機関リポジトリは、学術成果や科学的知識を広く社会一般に公開し、そのアクセスを保証するためのものであり、研究者が常に費用負担なし（無料）で研究成果を公開できるべきものです。費用負担が発生するのは、著者が米国化学会のジャーナルでの出版を希望する際に、その権利を米国化学会に移譲する場合にのみ容認できるものであり、著者に権利が保持されるべき著者最終稿について、機関リポジトリでの公開を希望する場合に容認できるものではありません。米国化学会によるこのような行動は、今後日本国内におけるオープンアクセスの推進、あるいは助成を受けた研究成果の即時オープンアクセス化に向けた取り組みの中で、研究者に不必要な金銭的負担を強いるものであり、大きな障害となるものです。

JPCOARとJUSTICEは、出版社が出版に係る費用を確保する必要性を認識しています。しかしながら、我々は米国化学会やその他の出版社に対し、研究者や大学が科学的成果を公開する際に、不必要な金銭的負担やペイウォールを設けることなくオープンアクセスを実現するため、透明で公平かつ持続可能な財務モデルを採用することを強く求めます。

オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）

運営委員会委員長 杉田 茂樹

大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）

運営委員会委員長 小陳 左和子

※1 米国化学会は「著者が Article Development Charge (ADC)を支払うことにより、CC BY ライセンスでエンバーゴ（公開猶予期間）なしで著者最終稿（accepted manuscript）を機関リポジトリ等で公開すること（グリーン・オープンアクセス）を可能にする」としています。ADCは\$2,500（376,000円、2023年11月）です。参考：

<https://acsopscience.org/researchers/zero-green-oa/>

※2 論文の著者は出版社へ著作権を委譲していない限り、費用負担なしでセルフアーカイブまたは機関リポジトリで著者最終稿を公開する権利を有します。米国化学会によるADCの導入は、本来費用負担が発生することのないセルフアーカイブや機関リポジトリでの著者最終稿の公開に対して、多額の金銭的負担を要求するものであり、その費用が必要となる根拠も不透明です。

※3 国のオープンアクセス方針により、即時オープンアクセスでの公開が求められることがあります。その主な方法として、最初からオープンアクセスで出版するゴールド・オープンアクセスと著者最終稿等を機関リポジトリ等で公開するグリーン・オープンアクセスがあります。前者は論文加工出版費用（APC）が発生するため費用負担がありますが、後者は基本的に無料です。